



2008

No. 1

The Natural Science Publishers' Association of Japan

自然科学書協会会報

発行人・本郷 允彦

編集・広報委員会

発行・2008年1月15日

社団法人 自然科学書協会

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-101 文化産業信用組合内 TEL03-3292-8281

URL : //www.nspa.or.jp

自然科学書協会がめざす道

— 新年のご挨拶に代えて —

理事長 本郷 允彦

明けましておめでとうございます。会員各位におかれましては日頃から協会活動にご協力・ご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

平成も20年という成人式の年を迎えます。故小渕首相が平成という年号を掲げてからすでに20年も経過しているのです。この間、出版界はどのような発展をしてきたのでしょうか。特に後半の10年は出版氷河期ともいわれかねない低迷を続けてきました。われわれ専門書の出版社も同様であったことは、会員の皆様方が一番感じておられるのではないのでしょうか。宮崎県の知事が「どげんかせんといかん」と言って、流行語大賞を受賞したのが昨年でした。当協会も正にこの言葉の意味を考え、新しい年に向かって進んでいかねばなりません。

協会を構成する5団体は、各々の分野では十分に活動し認知される団体となっていると思いますが、5団体が構成する自然科学書協会となると、どこまで認知されているか、知名度はいまひとつの感があるのではないのでしょうか。会報の発行、いろいろな行事を通じてわれわれは知名度のアップを図ることが必要になってきています。文科省が主催する「科学技術週間」の行事が毎年開催されていますが、当協会もこの科学技術週間とタイアップすることも考えて、知名度のアップを図ることができればと考えております。文科省との交渉、その他多くの障害があると思われませんが、前向きに取り組んでいくことができれば新しい協会の姿を模索できるのではと考えます。



その他にも協会を取り巻く問題は種々ありますが、今年は公益法人の見直しに対する対応、消費税に対する対応、複写処理団体の一本化に対する対応、内外ブックフェアに対する対応など、加えて販売活性化と関連業界との交流については、現在の自然科学書出版物の状況を、取次・書店の立場からの意見を聞くことも必要ではないかと考えます。その上で今後の協会としての方向も定めていかなければなりません。

今年から会計処理について顧問公認会計士にお願いし、協会の決算処理を監査してもらうとともに公認会計士からみた意見書をいただく契約をいたしました。これも公益法人見直しの一環であり、協会の会計処理基準を定め、公益法人としての公明さを広く認知させるために必要な事項と考えます。

今年も解決していかねばならない問題は多々ありますが、1つ1つ解決していきたいと考えております。今年も会員各位のご協力・ご支援を重ねてお願いし、新年の挨拶に代えさせていただきます。

□ 新春寄稿 □

さらなる読者層の拡大を

(株)トーハン 代表取締役社長 山崎 厚男

平成20年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。旧年中は格別のお引き立てを賜り、まことにありがとうございました。本年も相変わリませずご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



さて、昨年12月の痛撃が未だに脳裏を離れません。折も折、貴協会の年末会員集会前日に発表されたOECDの国際学習到達度調査の結果についてです。

57カ国・40万人の15歳を対象に知識の応用力を調べた結果、わが国は「科学的リテラシー」「数学的リテラシー」「読解力」いずれの分野でも前回より順位を落としたということでしたが、とりわけ衝撃的であったことは、テストに付随するアンケートで「科学についての本を読む」「科学に関するTV番組を見る」「科学に関する新聞・雑誌記事を読む」といった行動を「好き」と答えた生徒の割合が、いずれの項目でも参加国中最下位であったという点です。

各国の教育制度や社会環境の違いはあるにせよ、出版界としてなお一層の努力が求められる事態であると申せましょう。

自然科学書の読者拡大につきましては、知識の伝播と併せて次世代の才能を涵養するという重要な側面があります。貴協会は創立以来一貫してクオリティの高い出版により、わが国の科学技術の進展をリードしてこられたわけですが、これからはさらに広く一般に科学への関心を高めるような出版、あるいは公益法人としての取り組みが求められてくると存じます。

弊社といたしましても昨年より全面稼働態勢となりました桶川SCMセンターをオンラ

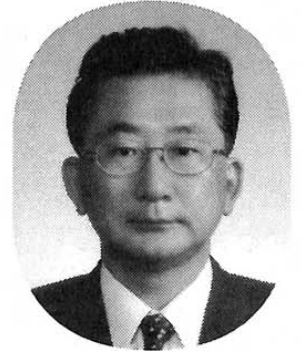
イン書店ネットワーク「e-hon」やブックライナー「本の特急便」と共に存分に駆使して専門書を求める読者のニーズを満たし、新たな需要を創造することに挑戦してまいる決意です。今後とも暖かいご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが自然科学書協会様のますますのご発展を祈念し、会員出版社皆様の一層のご繁栄を心よりお祈り申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

読者ニーズに十分応えることが大切

日本出版販売(株) 代表取締役社長 古屋 文明

新年明けましておめでとうございます。自然科学書協会の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また旧年中は格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございました。



さて、わが国の景気はごく一部の限られた範囲で好調さを維持しているようですが、様々な面で格差が広がっており、この傾向は今年も続いていくものと思われます。

このような中、われわれの業界におきましても、相変わらず出口の見えない状況が続いております。

ただ、出版不況を嘆いてばかりいても前進はないわけで、創意工夫で前向きに道を拓いていかなければなりません。自然科学書分野に目を向けてみますと、最近のトレンドとして、明るい材料になり得ると思われることが2つあります。1つ目は、書店の大型化であります。幅広い読者ニーズに応えるため、広い売場に専門書を取り揃える書店が増えています。いかに読者のニーズに合った品揃え・サービスをしていくかは、業界三者が協力して考えていかなければならないテーマです。

2つ目は、専門書と一般書の垣根が低くなっ

ているということです。昨今の教養系新書のブームにもみられますように、難しい内容を、ユニークなタイトルと平易な文章で著した作品は、一般読者にも受け入れられています。このような流れは、自然科学書分野にとっても、新たなビジネスチャンスにつながるものと考えます。

いずれにいたしましても、出版物の企画・流通の両面において、読者のニーズに十分にこたえていくことが、業界が低迷から脱出できる唯一の策であることは間違いありません。

本年も業界三者がさらに連携を密にして、邁進してまいりたいと存じます。何卒、相変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

フランクフルトブックフェア 見聞録

丸善(株) 中村 俊司

10月10日～12日、小社から総勢4名でフランクフルトブックフェアに行ってきました。

書協のツアーがありましたが、小社メンバーは書協のツアーには参加せず、しかも12日の夕方にブースでの面談を終えてそのまま帰国するという貧しいプランでしたので、ご期待にそえるような見聞録を記すことができないことをお許し下さい。

最も印象に残ったのは、10日夜オペラ座で行われたワイリー社の創立200周年記念



6号館1階のD列は“日本通り”



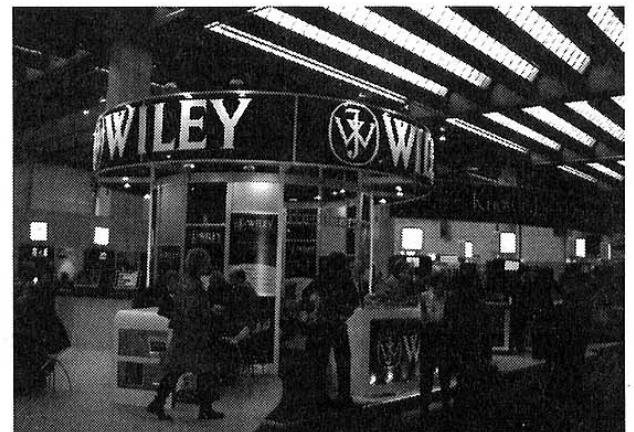
メッセ会場入口



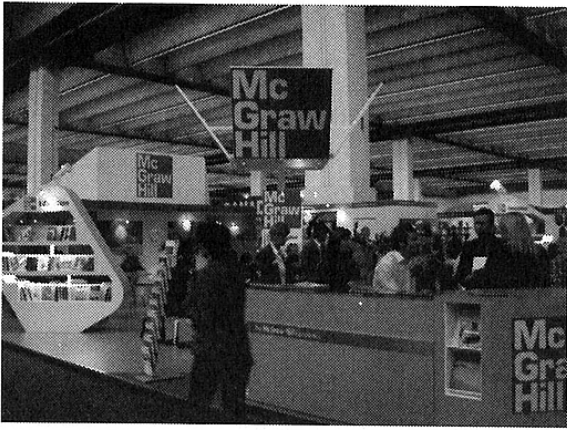
オリンピックを控えた中国は大型ブースが多かった



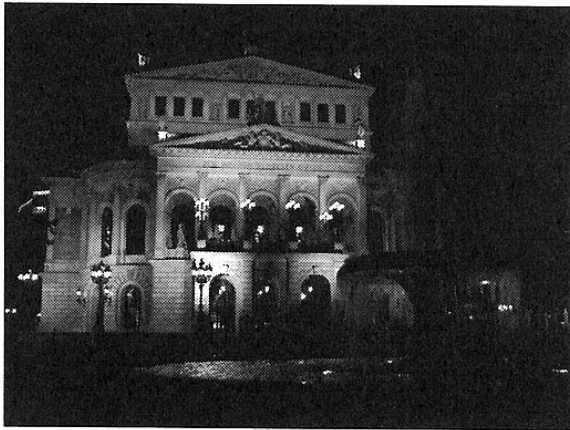
当協会のコーナーが設置されている日本ブース



ワイリー社のブース



マクローヒル社のブース



ワイリー社パーティ会場となったオペラ座

(Bicentennial) パーティーでした。最近、小社はあまり自慢できることはありませんので、歴史の古さだけを誇っていますが、それでも138年です。アメリカは歴史が浅いなどは、とても思えない伝統と格式を感じたパーティーでした。

36のブースを訪問しましたが、行く先々でA社のY本社長にお目に掛かりました。これはと思うタイトルがあるとすでにB社に売られていて、二番手、三番手のタイトルしか残っていないというY本社長の後塵を拝したブックフェアでした。Y本社長、今後は少し緩めていただけると助かります。

最後に1つエピソードをご紹介します。ブース訪問の際に小物(十二支の手ぬぐい)を持参しました。「十二支はその年のシンボルで、私はドラゴンの年の生まれです」と部下がいうと、体格のよい大柄なライツの方が「グッ

ド。私は多分ダイナソーの年の生まれね」といったので、思わず大笑いしてしまいました。アメリカは実に懐の深い国です。

第10回出版・印刷人の集いに130名余り

第10回となる「出版・印刷人の集い」が、11月15日に出版クラブ会館で開催された。毎年、東京都印刷工業組合の出版メディア協議会が主催し、自然科学書協会と出版梓会が協賛しているが、今年の参加は130名余りで、専門書の出版社と印刷会社の交流の輪が広がった。

例年通り2部構成で行われ、第1部は「われわれはいったい何を売っているのか」をテーマに、長澤販促塾の塾長・長澤一成氏が講演《要旨を後掲》を行った。長澤氏はバックミュージック「ニューヨーク・ニューヨーク」とともに登場すると、たっぷりのスライドを使いながら熱弁をふるった。

引き続き、別間にて第2部の懇親会が開かれた。まず最初に、出版メディア協議会の青木宏至会会長が挨拶に立ち、経済発展著しいベトナムを訪れてきたばかりということで、「日本にはない熱気に刺激を受けた。ベトナムのような国が将来われわれの市場になるのではないか」と感想を述べた。この後、自然科学書協会の本郷允彦理事長は、自然科学書がおかれている状況の厳しさは変わらないとした上で、「出版社と印刷会社とが手に手をとっていけば一歩進んだ取り組みができるのではないか」と語った。

乾杯の音頭は出版梓会の大坪嘉春理事長がとり、名刺交換会を兼ねた懇親会は、専門書の出版を盛り上げていこうという熱気に満ちたものとなった。

【長澤一成氏の講演要旨】—われわれはいったい何を売っているのか—

先日、春風亭小朝と泰葉の離婚会見があった。そこで、離婚の原因として結婚とはどう



本郷理事長が当協会を代表して挨拶



講演会はリラックスムードで

いうものか2人の認識にギャップがあったことが挙げられたが、この認識のギャップという問題はビジネスにも通じる話だ。

出版社という知識を売るのが仕事だが、読者に対してそれを果たしているのだろうか。論理的ではなく、顧客心理も考えずに、お客への押しつけをしてはいないか。

もともと私の会社は印刷会社なのだが、主要な取引先が大手に移ってしまったことがきっかけで、販促のコンサルタントを行う別会社をつくり、展開することにした。販促を提案すれば、それに伴って販促物の印刷を受注できるというメリットがあると考えた。

といってもビジネスのきっかけがないので、無料の診断を請け負うところから始めた。そのとき訪れたあるハウスメーカーでは、デザイナー任せにして営業担当者が使えない販促物を制作していた。それでは成績が伸びるわけがない。お客の購買行動をよく分析し、それに合わせた販促活動を展開することで、はじめて売上が拡大する。

私が感銘を受けた本がある。その本は、エクスペリエンス・マーケティングに関するものだ。これは体験を売るという考え方で、例えばディズニーランドは“楽しい経験”を売っていることになる。

青山に万年筆を売っている書斎館という店



出版と印刷は切れようがない関係・・・

があるが、万年筆といえば、ほとんど売れない商品。が、この店では人気がある。この店ではサービスを徹底し、ディスプレイも工夫している。店員は「私たちは豊かな時間を売っているのです」と言っているが、経験を売っているのはこういうことなのだ。

現在の日本はビジネスが中心で、ビジネス本やハウツー本が次々と出版される。しかし、私は小説の方が、よりビジネスに役立つ気付きが得られると感じている。実際のビジネスに必要なのは、ノウハウやマニュアルではなく、思想や知恵、世界観といったものではないか。すなわち、これから出版社に求められるのは「読者が読書を通して成長することを支援する」ことではないのか。(文責・森田 猛)

恒例の年末会員集會に112名が参加

当協会恒例の年末会員集會が、12月5日(水)18時より東京會館(千代田区)11階ゴールドルームで開催されました。今年も会員社代表と各専門委員会委員98名、それに取次・関連業界の方々14名の総勢112名が参加しました。

會は、本郷允彦理事長の「専門書の環境は依然として厳しいが、そんな時こそ協会設立時の理念である良い出版物を出すことが必要だ」という挨拶で始まりました。

来賓の山崎厚男(株)トーハン社長は「1月～12月の出版業界は前年比96.9%、金額にして2兆1000億円になるようだ。これは平成元年頃の売上と、厳しい状況が続いている。しかし、桶川流通センターが稼働しその成果をみると、読者のニーズはある。そのニーズを見付けている色々な角度からフォローしてゆくが、その1つとして子供たちに読書を奨める運動を強化したい」と挨拶した。

続いて挨拶に立った橋昌利日本出版販売(株)専務取締役は、「売上も、利益も減り、アップしたのは返品のみ」と笑わせた後、「日販だけの数字だが、自然科学書協会会員72社の売上は102.4%になっている。その内容をみると、やさしいもの、はじめての・・・、などという入門書で、こうした新しい読者に向けたものが売れている。今後は、新しい読者を見付け出す工夫と、やさしく感じる本作りが特に大切ではないか」と述べた。

志村幸雄前理事長は「再販問題などで示したように、主張する自然科学書協会の伝統を守って欲しい」と挨拶し、専門書出版が発展するようにと期待を込めた乾杯の発声で、一気ににぎやかな懇親會になった。今年も厳しい環境下で開かれた師走の集會にもかかわらず、あちこちで懐かしい顔との交流や情報交換が行われ、会場は盛り上がった。

第57期理事会・委員会開催一覧(2007年7月～12月)

● 理事会

7月5日(木)	12:00～14:00	東京ビッグサイト
7月19日(木)	15:00～17:00	日本出版クラブ会館
8月2日(木)	17:00～18:00	ウェスティンホテル東京
9月20日(木)	15:00～17:00	日本出版クラブ会館
10月18日(木)	15:00～17:00	日本出版クラブ会館
11月15日(木)	14:00～16:00	日本出版クラブ会館
12月5日(木)	15:30～17:30	東京會館

● 専門委員会

7月11日(木)	販売・出展委員会	16:00～17:00	文化産業信用組合
9月5日(木)	著作・出版権委員会	15:00～17:00	日本出版クラブ会館

9月19日(木)	総務委員会	13:30～15:30	文化産業信用組合
9月27日(木)	広報委員会	16:00～17:00	文化産業信用組合
10月4日(木)	総務委員会	13:30～14:30	文化産業信用組合
11月6日(木)	販売・出展委員会	16:30～17:30	文化産業信用組合
11月7日(木)	総務委員会	13:30～14:30	文化産業信用組合
11月29日(木)	著作・出版権委員会	13:00～15:00	日本出版クラブ会館
12月4日(木)	情報システム委員会	14:00～15:00	文化産業信用組合
"	広報委員会	16:00～17:00	文化産業信用組合

● その他の行事

7月19日(木)	第57期第1回定時総会	日本出版クラブ会館
7月26日(木)	出版梓会「業界・会員社懇親會の集い」	日本出版クラブ会館
11月15日(木)	東印工組「出版印刷人の集い」	日本出版クラブ会館
11月19日(月)	「公益法人制度改革説明會」	東京大学
11月26日(月)	「公益法人制度改革説明會」	東京大学
12月5日(木)	年末会員集會	東京會館

【事務局より】

◆代表者変更

株式会社サイエンス社
旧代表:森平 雄三
新代表:木下 敏孝

◆退会

株式会社科学新聞社
株式会社山海堂

編集後記

2007年は皆様にとってどんな年だったでしょうか。出版界は昨年にもまた濃い霧の中であえいでいるような年でしたが、光も少しずつ見えてきたような気もします。昨年初、(財)文字・活字文化推進機構が発足しました。設立総會での「アピール」には、「読む」「書く」「話す」「聞く」という総合的な言葉の力を向上させるため、すでに施行されている「読書活動推進法」と「文字・活字文化振興法」に盛り込まれている諸施策を具体化するため取り組んでいくこと、2010年を「国民読書年」とするよう働きかけていくことが、うたわれています。出版界にとってはもちろんですが、わが國の将来にとってとても大事なことだと思います。2008年が皆様にとって実り多く、よい年でありますよう祈念しています。(S.A)

第57期/第58期広報委員

<担当常務理事> 山本 格(培風館)
<委員長> 曾根 良介(化学同人)
<副委員長> 新谷 滋記(工業調査會)
森田 猛(緑書房)
<委員> 朝倉誠造(朝倉書店)・安原 仁(家の光協会)・長 滋彦(技報堂出版)・牛来真也(コロナ社)・三宅恒太郎(彰國社)・田中久米四郎(電気書院)・柏原徹二(南江堂)